

ふるさとのたからもの

～「色」で、さがしてみよう!!!～

別府（地ごくめぐりから）



「地域の色・自分の色」研究会

（「ちいき・の・いろ・じぶん・の・いろ」けんきゅうかい）

監修 秋田喜代美

ふるさとのたからもの

「地域の色・自分の色」研究会

監修 秋田喜代美



「地域の色・自分の色」研究会



「見方」を変えれば、「見え方」が変わる。「見え方」が変われば、「日常」や「当たり前」の中に隠れている「宝物」が見えてくる。そのような思いから、子どもたちと一緒に、「色」という視点で、身の回りの「日常」や「当たり前」を捉え直してみたいと考えました。

そうすることで、身の回りから、子どもたちや私たち、そしてふるさとの「宝物」が見つかるかもしれません。さらに、子どもたちや私たち、そしてふるさとの可能性も広がるかもしれません。そんな思いを込めて取組みを始めました。

取組む場所は「別府」とし、「地獄めぐり」から始めることとしました。「別府」には、彩り豊かな温泉があります。その温泉は、日本一の湧出量をほこり、中でも、「鉄輪温泉」は、温泉の出口「地獄」を生活の一部として活用し、自然と共生している地域です。

この「鉄輪温泉」を中心に、「色」という視点から、「ふるさとの宝物」を探してみたいと思いました。身の回りの綺麗な「色」を見つけ、隠れた「色」を掘り起こしながら、わたしだけの「宝物」をさがします。ぜひ、大人と子ども、一緒に楽しんでいただきたいと思います。

「地域の色・自分の色」研究会

代表 照山 龍治

目次

はじめに

- ① 「地ごくめぐり」で見える「地ごく」の「色」…………… 3
- ② 「子どもたち」がえがく「地ごく」の「色」…………… 15
- ③ 「地ごく」の「ゆけむり」、かわる「色」…………… 17
- ④ 「地ごく」の「おんせん」、どこからくるの?…………… 17
- ⑤ 「火山」の「かみさま」、「お宮」の「色」…………… 18
- ⑥ 「火山」が生んだ「別府石」の「色」…………… 19
- ⑦ 「火山」が生み、地いきの「人」がもてる「草原(そうげん)」の「色」…………… 20
- ⑧ 「地ごく」の「おんせん」、どこにいくの?…………… 20
- ⑨ 「海」と「地ごく」の「むかしばなし」に「色」…………… 21
- ⑩ 「火山」の石が見せる いろいろな「色」…………… 23
- ⑪ 「火山」の石にかくれている いろいろな「色」…………… 23
- ⑫ みのまわりの草花が見せる いろいろな「色」…………… 27
- ⑬ みのまわりの草花にかくれている いろいろな「色」…………… 27
- ⑭ いろいろな「色」で えがく わたしの「きれいなもの」…………… 29

おわりに



はじめに



わたしたちの「まわり」には、いろいろな「色」があります。

「地ごくめぐり」にいけば、いろいろな「色」の「地ごく」があります。

「海」にいけば、いろいろな「色」の石や「すな」があります。

そして、山にいけば、いろいろな「色」の石や草花があります。

「おうち」や「学校」のまわりの石や土、そして草や木の中には、いろいろな「色」が、かくれているかもしれません。

その中には、ずっともちつづけていたいとおもう「きれいなもの」もあるとおもいます。それを、この「あそび」のなかで、さがしてみます。

それでは、「おにお」、「おにこ」といっしょに、「地ごくめぐり」から、いろいろな 別府の「色」をさがしてみましょう。



おにお

おにこ

1

「地ごくめぐり」で見える「地ごく」の「色」

「別府」は、「日本一」の「おんせんの町」です。

そして、その「おんせん」が出るところを「地ごく」とよんでいます。その「地ごく」には、いろいろな「色」があります。もしかしたら、別府は、「せかい」で、1ばん「色」があふれる「おんせんの町」かもしれません。

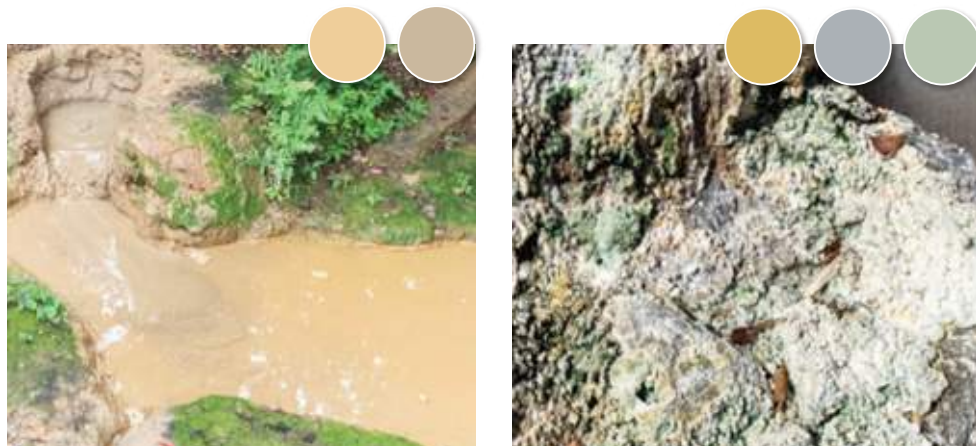
※「しゃしん」は、「地もと」の子どもたちといっしょにえらびました。

※「しゃしん」の右上の○は、「しゃしん」の中から、「地もと」の子どもたちと見つけた「色」です。

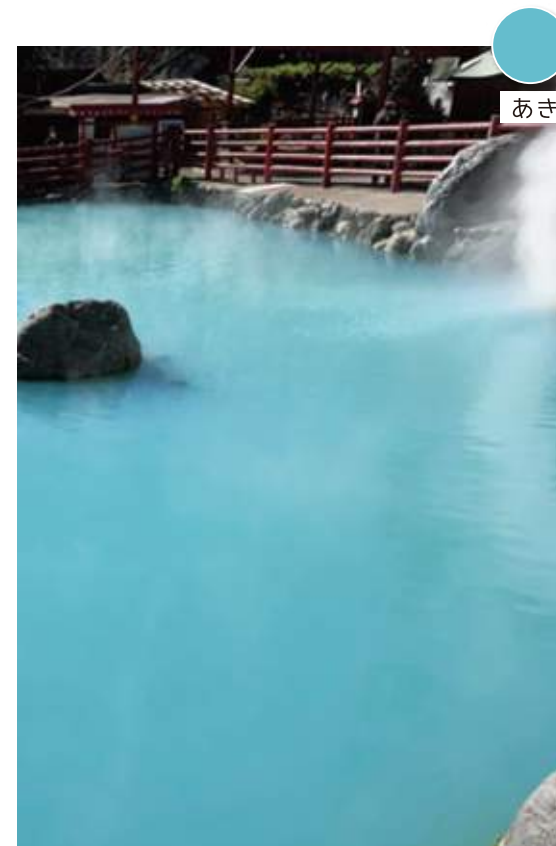


かまど地獄 (かまどじごく)

その中には、いろいろな「色」の「いけ」があります。



そして、「きせつ」によって、「色」がかわる「いけ」もあります。



海地獄 (うみ じごく)

「鶴見岳(つるみだけ)」という火山の「ばくはつ」で生まれました。
この「海地獄」の中には、「赤いけ地獄」という「いけ」や「オオ オニバス」がういている「いけ」もあります。



血の池地獄 (ちのいけ じごく)

日本で、1ばん ふるい「てんねん」の「地獄」です。
「どろ」は「くすり」にもなります。



鬼石坊主地獄 (おに いし ぼうず じごく)

あつい「どろ」が「おぼうさん」の「あたま」のようにふくれます。「足ゆ」もあります。



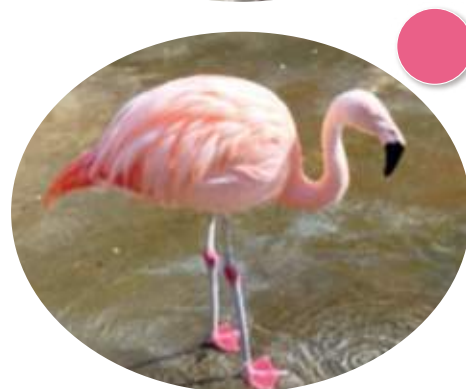
鬼山地獄 (おに やま じごく)

日本で、はじめて、おんせんの「ねつ」をつかって、「ワニ」をかいはじめました。「ワニ地獄」ともいいます。



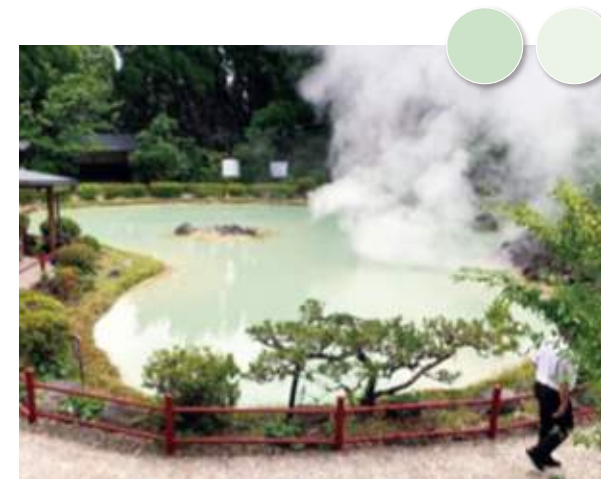
山地獄 (やまじごく)

山から「ゆけむり」が出ています。「おんせん の ねつ」をつかった「どうぶつえん」もあります。「くじゃく」や「フラミンゴ」がいます。



白池地獄 (しろいけじごく)

おんせんの「ねつ」をつかった「ねったい ぎょ かん」もあります。「レッドテール キャット フィッシュ」や「ピラルク」など「ねったい ぎょ」がいます。



竜巻地獄 (たつまき じごく)

ときおり「たつまき」のように、あつい「ゆ」をふきあげます。



天然坊主地獄 (てんねん ぼうず じごく)

おおむかし、大きな「地しん」があったときに、「お寺」の「地めん」が、ばくはつして生まれた「あつい だろ」の「いけ」です。





このように、いろいろな「色」を見せる「地ごく」は、「地もと」の「子どもたち」に、どのように見えているのでしょうか？「海地ごく」や「血のいけ地ごく」、「おに石ぼうず地ごく」、そして「おに山地ごく」の「地ごくめぐり」をした「地もと」の子どもたちに きいてみました。

海地ごく

- きれいな「水色」、けむりもすごい。「水色」と「けむり」とのあいしょうがよく、とてもここにのこっています。(Aさん)
- 「海地ごく」で、「海」を見ました。(Kさん)
- 「海地ごく」には、「にゅうよくざい」が入っているのかな？(Iさん)
- 「地ごく」は、「てんねんきねんぶつ」。しぜんにできている。(Mさん)
- 「血のいけ地ごく」とおなじ「色」の「いけ」がありました。(Rさん)
- 「色」は、「青色」、「おんせん玉子」のにおいがしました。「ポアポア」というけむりの音がきこえました。(Jさん)
- 「色」は、きれいな「水色」でした。バナナとハスがあり、「あたたかい ばしょ」でそだつバナナがあったことにはおどろきました。ホッとする「におい」でした。(Sさん)
- 「海地ごく」が1ばんここにのこりました。「色」は「水色」、「けむり」が出ていて見えにくかったです。(Uさん)
- 「色」は、「赤色」「ねすみ色」「水色」「オレンジ色」、いっぱい色がありました。(Tさん)



血のいけ地ごく

- 「色」は、「血」のような赤でした。(Gさん)
- 「色」は、「血」の「色」、音は、しずかでした。(Fさん)



おに石ぼうず地ごく

- 「どろ」のなかに、「ブクッ」と「ぼうずあたま」、そのまわりには、すこし、こい円がありました。(Aさん)
- 「色」は、「どうめい」で、「ニョロニョロ」という「おんせん」がながれる音がしました。(Jさん)
- 「色」は、「グレー」、「ブクブク」のどろんこ。「あわ」のにおい。(Hさん)
- 「色」は、「白」、「ブクブク」という音でした。(Rさん)
- 「色」は、「はい色」で、「ぼうず」に、にっていました。(Fさん)
- 「色」は、「はい色」で、形は丸かった。(Lさん)
- 1ばん ところにのこったのは「足ゆ」でした。(Mさん)



おに山 地ごく

- 「色」は、「赤色」でした。(Yさん)
- 「色」は、「ちゃ色」、ワニのにおい、ワニが口をあける音がしました。(Hさん)



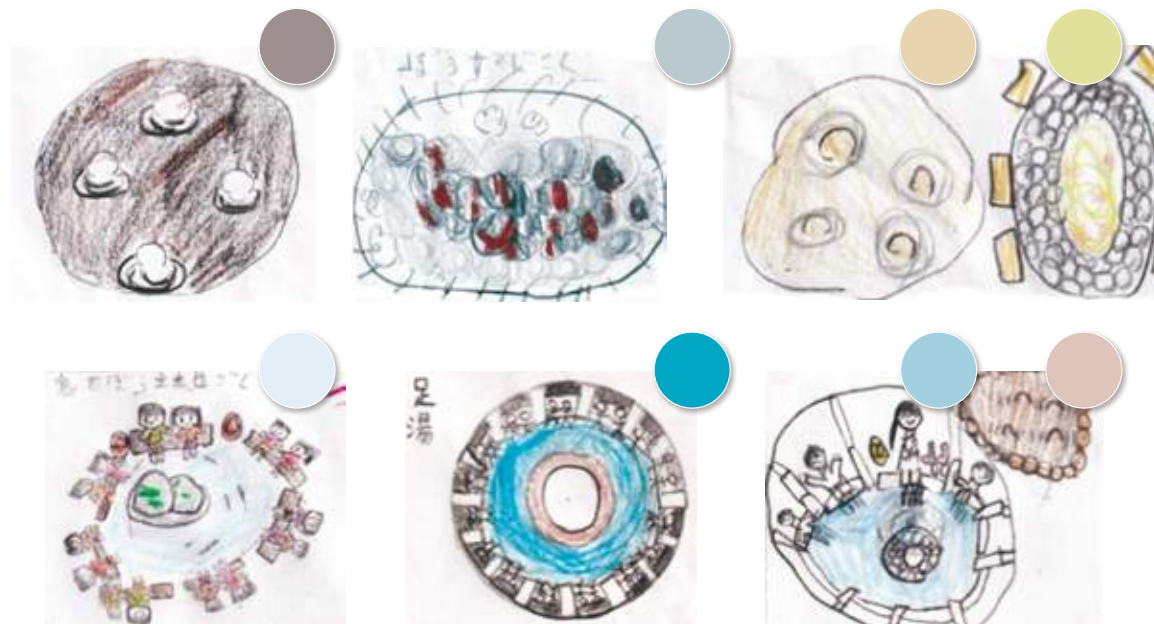
2

「子どもたち」がえがく「地ごく」の「色」

これは、地もとの子どもたちが、「地ごくめぐり」にいったときに、かいた「えにつき」の「え」です。
その中にも、いろいろな「色」が見えます。



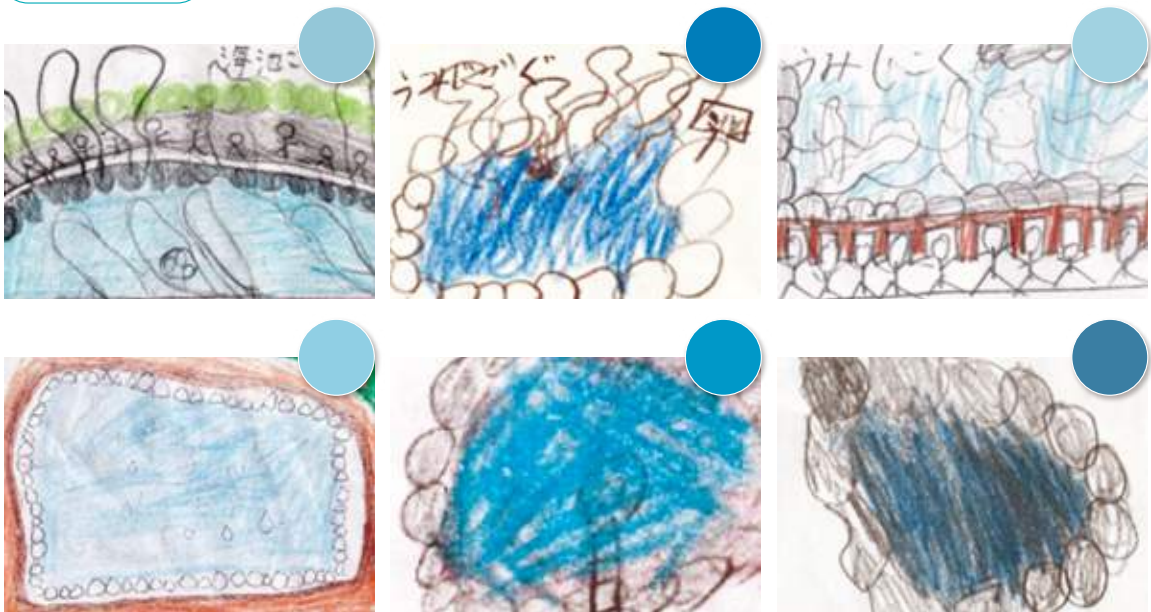
おに石ぼうず地ごく (足ゆ)



おに山地ごく (ワニ地ごく)



海地ごく



血の池地ごく



「けんきゅう会」からの「おはなし」
みなさんの「見かた」や「かんじかた」によって、「地ごく」から出る「おんせん」や、そこにいる「どうぶつ」たちが みなさんには、いろいろな「色」に見えることがわかりました。



研究会代表 照山龍治

「大学の先生」からの「おはなし」
おなじ「ばしょ」で、おなじ「地ごく」を見ても、なにに「気がついたのか」、なにに「心がひかれたのか」、なにを「あらわしたいのか」によって、かかれたものの「大きさ」や「かたち」、「かきかた」の工夫にちがいがあることが、よみとれますね。心をこめてかいた1まい1まいだから、見る人にもその地ごくのようすがとてもよくつたわってきます。



東京大学教授 秋田喜代美

3

「地ごく」の「ゆけむり」、かわる「色」

「地ごく」は、「ゆけむり」もたくさん出します。そこにも「色」があります。「ひる」と「よる」とで、「色」がちがってみえます。

別府・かなわの町



ひる



よる

4

「地ごく」の「おんせん」、どこからくるの？

いろいろな「色」の「おんせん」は、どこからくるのでしょうか？「おんせん」は、「鶴見岳(つるみだけ)」や「伽藍岳(がらんだけ)」という火山で生まれて、やく50年かけて、土の下をとおってきます。その火山という山にも、いろいろな「色」があります。



鶴見岳



伽藍岳



5

「火山」の「かみさま」、「お宮」の「色」

「鶴見岳(つるみだけ)」という「火山」には、「火山のかみさま」を、おまつりする「お宮」があります。そこにも、いろいろな「色」があります。



火男火売神社 (ほのお ほのめ じんじゃ)

上宮

「鶴見岳」の「山上」にあります



中宮

「鶴見岳」の「中ふく」にあります



下宮

「鶴見岳」の「ふもと」にあります



6 「火山」が生んだ「別府石」の「色」

火山という山は、「別府石」という、きれいな石も、生み出しました。その「別府石」で、別府の「石がき」や「石だたみ」、「たてもの」などがつくられています。その「別府石」にも、いろいろな「色」があります。



別府石

京都(きょうと)大学の別府石です



「かなわおんせん」の 石がき



京都大学地球熱学研究施設(きょうとだいがく ちきゅう ねつがく けんきゅう しせつ)
右の「しゃしん」は、この「たてもの」を ささえる「そ石」です



火山から生まれた石は、「こふん」という「おおむかし」の「おほか」にも、つかわれました。そして、別府の「こふん」には、「血の池地ごく」の 赤い「どろ」がぬられたといわれています。

鬼の岩屋古墳(おにの いわや こふん)

「上人(しょうにん)小学校」の中にあります。



天神畑古墳(てんじん ばた こふん)

「実相寺古代遺跡公園(じっそうじ こだい いせき こうえん)」の中にあります。



7 「火山」が生み、地いきの「人」がまもる「草原(そうげん)」の「色」

火山から生まれ、人が「野焼き(のやき)」でまもってきた草原(そうげん)は、「きせつ」によって、いろいろな「色」を見せます。「野焼き」の後には、たくさんの草花が「め」を出します。

おおぎ山の「雪景色(ゆきげしき)」と「野焼き」、そして「春景色(はるげしき)」

雪景色



野焼き



春景色



8 「地ごく」の「おんせん」、どこに行くの?

いろいろな「色」の「おんせん」は、「別府の海」にむかって、いつもながれています。その、「別府の海」のまわりにある「すなはま」にも、いろいろな「色」があります。



別府の「スパビーチ」



佐賀関(さかのせき)の「白がはま」



佐賀関(さかのせき)の「黒がはま」



愛媛県(えひめけん)・三崎(みさき)の「すなはま」



9

「海」と「地ごく」の「むかしばなし」に「色」

「おんせん」が出る「地ごく」や「おんせん」がながれこむ「別府の海」には、いろいろな「むかしばなし」があります。そこにも、いろいろな「色」が出てきます。その「色」も、さがしてみましょ。

豊後風土記(ぶんご ふどき)
大分県(おおいたけん)
やく1300年まえ

「くべりゆのい」→「かなわおんせん」のどこかです。「ゆ」の「色」は「黒い」、「ゆ」がわきあがるとかかれています。

「あかゆのいすみ」→「血のいけ地ごく」のことです。「ゆ」の「色」は「赤い」、「かまど山」にわくとかかれています。

かまど山

ちのいけ じごく

「別府の海」

別府 おんせん

坊主地獄伝説(ぼうず じごく でんせつ)
やく500年まえ



お寺の地めんが、大ばくはつ、お寺はなくなり、地めんから あつい「どろ」が出て、「てんねんぼうず地ごく」が生まれました。

瓜生島伝説(うりゅうじま でんせつ)
やく400年まえ

「お地ぞうさま」の「かお」が「赤く」なって、「しま」がしずみました。

伊予国風土記(逸文)
(いよのくに ふどき いつぶん)
愛媛県(えひめけん)、
やく1300年まえ
釈日本紀(しゃくにほんぎ)、
やく700年まえ

愛媛県松山市(えひめけん まつやまし)
「道後(どうご)おんせん」

1300年まえの伊予国風土記(逸文)には、海にパイプをとおして「おんせん」をおくったとかかれています。



「赤い花(つばき)」と「緑」の「は」がかがやく「おんせん」。



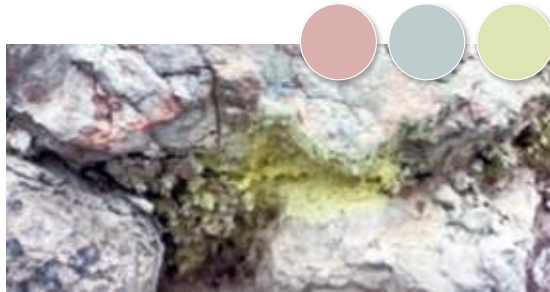
10

「火山」の石が見せる いろいろな「色」

「火山」という山には、
いろいろな「色」の石や土があります。



「伽藍岳(がらん だけ)」という火山のいろいろな石の「色」



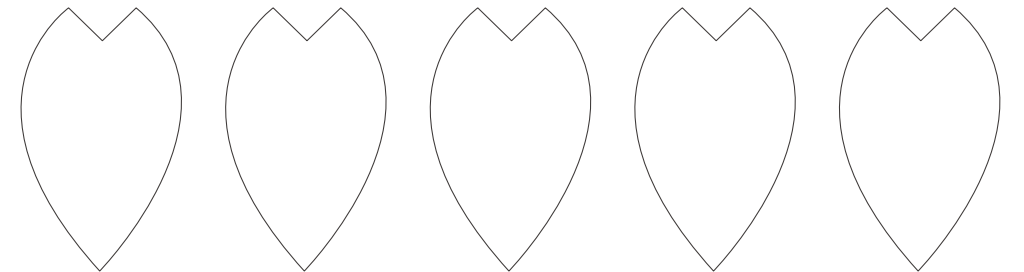
「がなりょう」に、「のり」をまぜると「えのぐ」になります。
その「がなりょう」からつくった「えのぐ」で、「ぬりえ」をしました。

「がなりょう」からつくった「えのぐ」による「ぬりえ」



それでは、みなさんも、「色えんぴつ」や「クレヨン」で、「ぬりえ」してみてください。

「色えんぴつ」や「クレヨン」による「ぬりえ」



「がなりょう」でつくった「えのぐ」の「色」と、
「色えんぴつ」や「クレヨン」の「色」とくらべてみてください。
どのようにちがいますか？

11

「火山」の石に かくれている いろいろな「色」

いろいろな「色」の石や土は「えのぐ」としてつかうこともできます。

「伽藍岳」
という火山の石



この石をくだいて「こな」にすると、「えのぐ」のもとになる「がなりょう」になります。

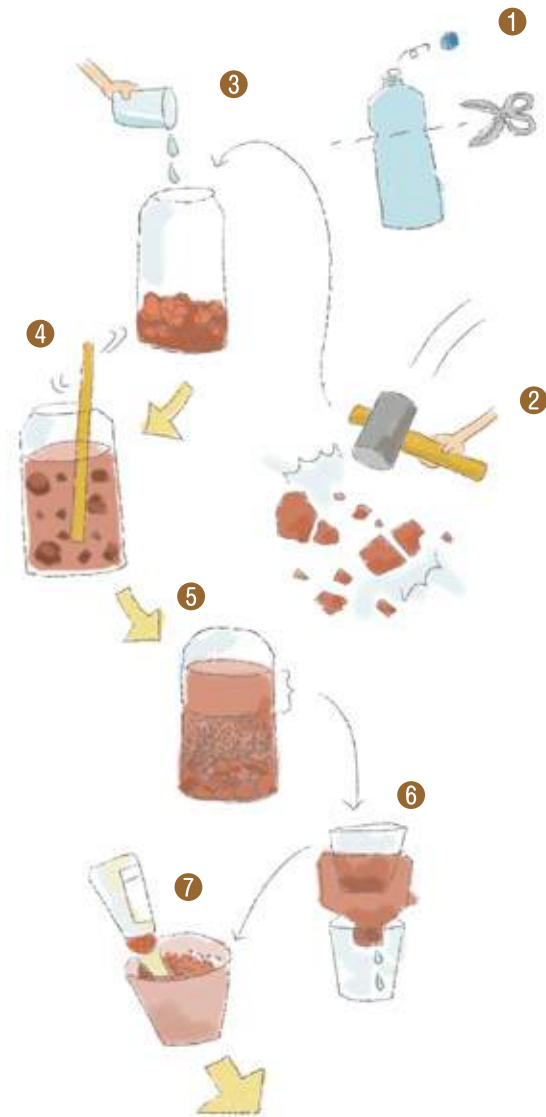
いろいろな「色」
の「がなりょう」



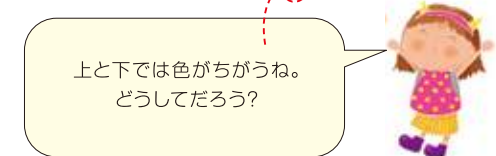
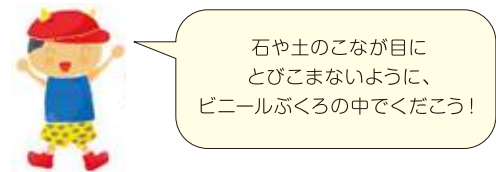
みなさんも、石や土から「えのぐ」をつかって、「ぬりえ」をしてみましょう。

「えのぐ」のつくりかた

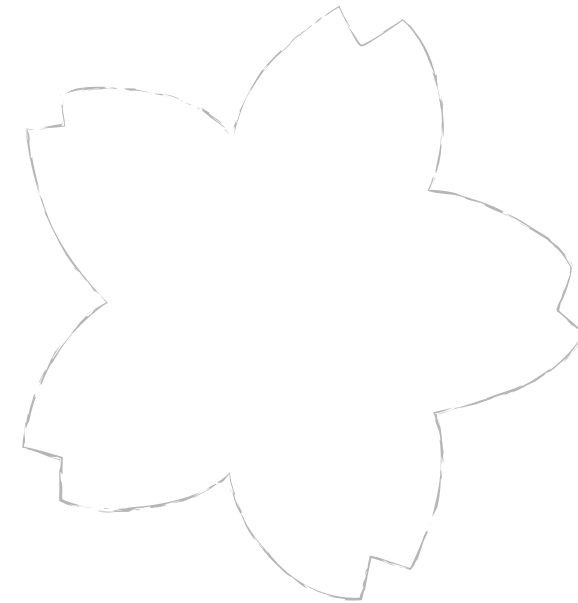
よういするもの ● ビニールぶくろ (こめぶくろ)、しんぶんし、かなづち、ペットボトル、はさみ、コーヒーフィルター、のり、わりばし、ふで



できあがり



わたしの「えのぐ」による「ぬりえ」



それが、石や土にかくれていた「色」です。

12

みのまわりの草花が見せる いろいろな「色」

別府の道ばたの草花



「さざんか」と「よもぎ」で「たたきぞめ」をしてみました。

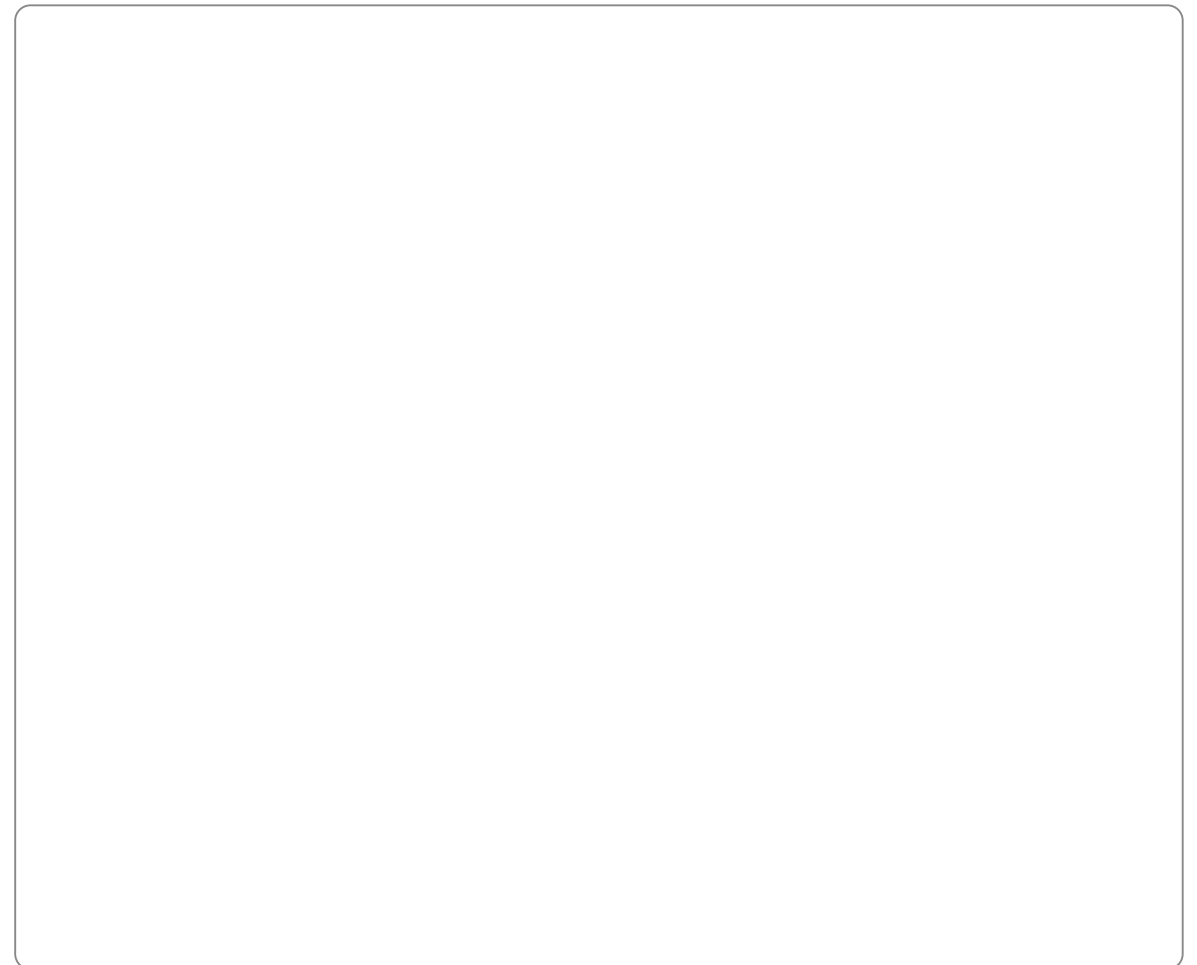
さざんか



よもぎ



わたしの「たたきぞめ」、「こすりぞめ」



それが、草花にかくれていた「色」です。

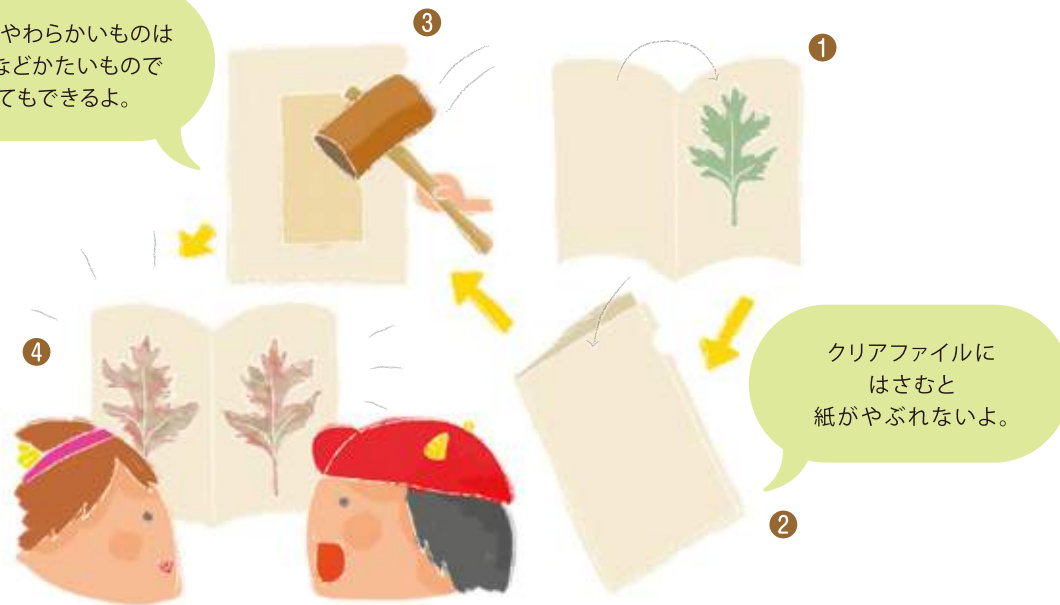
13

みのまわりの草花にかくれている いろいろな「色」

みのまわりの草花にかくれている「色」もさがしてみましよう。
白い「かみ」や「ぬの」に、花や「は」をはさんで「たたく」か「こする」か、
してみましよう。

「たたきぞめ」と「こすりぞめ」の「やり方」

花びらなどやわらかいものは
スプーンなどかたいもので
こすってもできるよ。



クリアファイルに
はさむと
紙がやぶれないよ。

14

いろいろな「色」で えがく わたしの「きれいなもの」

このように、みなさんの周りには、いろいろな「色」がたくさんありました。かかれています「色」もありました。その中には、ずっと、だいじにしていいたいとおもう「きれいなもの」もあつたのではないかとおもいます。

その「きれいなもの」を、石や土でつくつた「えのぐ」や「色えんぴつ」、「クレヨン」などをつかつて えがいてみましょう。



年 月 日	学校・えん
年 組 (ねん) (くみ)	名前 (なまえ)

それは、みなさんが、ずっと、もちつづける「ふるさと」の「たからもの」になるかもしれません。

おわりに

みなさん、「きれいなもの」を、見つけることができましたか？
わたしたちの「まわり」には、まだまだ、「きれいなもの」が、いっぱいあります。その「きれいなもの」を見つけて、ずっとだいじにしていけば、それが、いつか「じぶんだけ」のだいじな「たからもの」になるとおもいます。
おうちの人や、おともだちの「えがお」も、みなさんのだいじな「たからもの」だと、わたしたちはおもっています。

これから、「学校」や「おうち」の、「中」や「そと」で、「きれいなもの」をいっぱい見つけてください。もし、あたらしい「きれいなもの」を見つけたら、「え」をかいてみてください。「しゃしん」をとってみてください。わたしたち「けんきゅう会」は、「みなさん」の「え」や「しゃしん」を「地いきの色・自分の色はくぶつかん (<https://museum.o-iro.jp/>)」にてんじて、みなさんが見つけた「きれいなもの」を、おおくの人に、見てもらいたいとおもっています。

みなさん、これから、みのまわりから、ずっと、たいせつにしたいとおもう「自分だけ」の「たからもの」をさがしつづけてください。そして、大人になつても、みなさんが「生まれたところ」や「いま、すんでいるところ」をすきでいつづけてください。わたしたちはそのようにねがっています。



公益財団法人前川財団 2020 年度助成を受けて、東京大学の秋田教授をはじめ、多くの先生方のご指導の下に、鶴見小学校、明星小学校、明星幼稚園のご協力をいただき、「色」という「感性」からの視点、「研究会」という「外」からの視点、そして「子どもたちの目」を通した「未来」からの視点で、別府市の鉄輪温泉を中心に、身の回りや日常に隠れている「宝物」を掘り起こすという取り組みを試みました。

この「絵本」は、その取り組みの中で、子どもたちの副教材として活用したものです。多くの子どもたちや皆様方に、この取り組みを参考にさせていただきながら、身の回りから、ふるさとの「宝物」を見つけ、家族ぐるみ・地域ぐるみで、生まれ育ったふるさとを好きでい続けていただけることを、私たち、「地域の色・自分の色」研究会は、心から願っています。

なお、この本を作るにあたり、多大なるご協力をいただきました鶴見小学校の猪俣校長をはじめ、子どもたちや職員の皆さんには心から感謝申し上げたいと思います。

また、写真撮影にご協力いただきました皆様にも心からお礼を申し上げます。

「地域の色・自分の色」研究会

代表 照山 龍治

URL <https://museum.o-iro.jp/>

「地域の色・自分の色」研究会は、2014年4月に、「色」を通して、綺麗という「感性」から、ふるさと大分の「大地」や「歴史・文化」を捉え直し、「ふるさとの魅力」を発見することを目的に発足しました。2018年4月からは、対象地域を九州、全国に広げ、他県・他地域と知見を分かち合うことで、「感性」からの視点に、地域を越えた「外」からの視点を加え、「ふるさと大分の宝物」を掘り起こし、それを活用した「地域教育」と「地域振興」を模索してきました。

2020年10月からは、「公益財団法人 前川財団」の助成を受け、これまでの2つの視点に、地域の未来を支える子供たちの視点を加えて、「色」を基本に置きながら、「感性からの視点」、「外からの視点」、「未来からの視点」という3つの視点から、「ふるさとの宝物」を掘り起こし、地域の10年後、20年後を見据えた未来志向の地域教育や地域振興の仕組みづくりを模索しています。

「地域の色・自分の色」研究会	代表	照山 龍治
	副代表	木村 典之
	会員	幸野 洋子
		塩月 孝子(事務局)
		山崎 朱実(別府市立鶴見小学校)
	監修	東京大学大学院教育学研究科長 教授 秋田 喜代美
	協力	京都大学 名誉教授 竹村 恵二
		京都大学地球熱学研究施設 施設長・教授 大沢 信二
		大分県立歴史博物館
		別府市・別府市教育委員会
実践校・園		別府市立鶴見小学校
		学校法人 別府大学 明星小学校
		学校法人 別府大学 明星幼稚園
	挿絵	後藤 友美子
	題字	大塚 伊都子
	印刷製本	株式会社 明文堂印刷
	参考文献	「色から始まる探究学習」「地域の色・自分の色」実行委員会 +秋田喜代美 明石書店
		「教育ビデオライブラリー69 自分の色を見つけよう 地域の色・自分の色をつくる試み」秋田喜代美監修指導(2019) 日本児童教育振興財団
		「協働する博物館」博学連携の充実に向けて 小川義和 ジダイ社
		「火山のしくみ パーフェクトガイド」高橋正樹 誠文堂新光社
		「豊後国・肥前国・逸文・風土記」中村啓信 角川ソフィア文庫
		「水文科学が解き明かす不思議な天然水・様々な色を呈する別府の地獄」大沢信二(2011)・日本水文科学会誌第41巻第3号
		大分大学教育福祉科学部附属中学校研究紀要第52集(2006) “あそび”の中で始まる美術教育の展開
関連サイト		「別府温泉地球博物館」ホームページ www.bepmuseum.jp/
		「別府地獄組合」ホームページ
		「天然坊主地獄」ホームページ
		「山地獄」ホームページ

※本紙に掲載している写真は当研究会が撮影したものです。
別府市・別府市教育委員会所有の写真は許諾を得て掲載しています。